

学べる  
憩える  
快適空間

## 図書館の魅力

### 『まるっとパンダ!』

子どもから大人まで幅広くご利用いただける憩いの場「図書館」。その魅力についてお伝えしていきます。11月のテーマコーナーは「まるっとパンダ!」です。パンダの絵本・紙芝居・写真集など、パンダについて知ることができる本を集めました。まるっとお楽しみください。(12月6日(月)まで)

#### 『パルちゃんとピンクのあかちゃん』

(かけひさとこ作/絵 教育画劇)



パンダのパルちゃんに妹が生まれました。でもあかちゃんはまるでピンクのトカゲみたい。パルちゃんは「こんなの私の妹じゃない!」と、家を飛び出してしまいました。すると、カンガルーのルカちゃんたちがやってきて…。

#### 『ほんとうのおおきさでみてみよう!』

#### 『パンダのあかちゃん』

(今泉忠明/監修 福田豊文・アドベンチャーワールド/写真 ひしかたチャイルド)



竹を食べたり、木登りしたり、でんぐり返したり…。パンダのあかちゃんの成長をたくさんの写真で紹介する、読み聞かせにもぴったりの科学絵本。生後半年の実寸大あかちゃんパンダを収めた大きなしかけページあり。

【紹介文は株式会社図書館流通センターの書誌詳細より引用】

動物園の人気者で、見た目もしくさもかわいいパンダ。本を読んで、パンダのことをもっと知ってみましょう。



### モータースポーツお宝探検隊 vol.7

1962年9月に完成した鈴鹿サーキット。初めて開催されたレースは、同年11月に国内外の強豪ライダーを集めて行われた「全日本選手権ロードレース」でした。このとき、荻田奎二さん(82歳 鈴鹿ハイツ)は、鈴鹿サーキットの第一期生社員として飲食部門の責任者でした。「大会期間中は詰め掛ける観客対応でほとんど寝た記憶もなく、地獄のようでした」と笑う荻田さん。場内レストランでは調理が追いつかず、食パンを厚切りにして販売したそうです。

なにもかもが初物づくしで、多忙の日々だった荻田さんでしたが、ホンダの創業者である本田宗一郎さんに接する機会も多く、その天才的な発想力や国際的な視野の広さ、魅力的な人柄などに触れた思い出は、その後独立して事業を興す「夢に向かう原動力」になりました。

今も荻田さんの手もとには、当時のレース関係者に配布された記念メダルがあります。その重みは、約60年前に鈴鹿が世界に向けて開かれ始めた時代を物語っているようです。



▲ずっしりと重い記念メダル

■中野能成(鈴鹿モータースポーツ友の会 事務局)

### キーボード



今月号の表紙や特集に子どもたちの「笑顔」の写真を掲載しようと、市内の公園や施設に赴きました。協力いただくお子さんを撮影する際、「笑顔」をリクエストすると、お母さんたちが「こちょこちょこちょ〜」と脇腹をくすぐったり、「ぽて〜と、ぽてぽてと〜」と子どもが好きな歌と一緒に歌ったりするなど、あの手この手で笑顔にいただきました。子どもたちの笑うツボがそれぞれ違い、撮影して

楽しく、笑顔そのものにも私自身とても癒やされました。撮影にご協力いただいた皆さんありがとうございました。ちなみに私の姪は、お父さんである私の兄に手を持ってもらいスクワットをすると、なぜかにつこにこの笑顔になります。それを見ている兄や私もつられて、にこにこに。そんなふうに子どもから大人まで、笑顔の連鎖がどこまでも続いていくといいなと思います。(恵)